**平成28年度第1回大阪府日本万国博覧会記念公園運営審議会緑整備部会記録《要旨》**

○日時　　平成28年11月２日（水）１６：００～１７：００

○場所　　万博記念公園事務所

○出席委員等　 中瀬部会長、尼﨑委員、中村委員、服部委員、深町委員、

山本委員

○事務局　　府民文化部副理事　ほか

＜万博記念公園の今後の運営体制　説明＞

＜万博記念公園の森の育成について　説明＞

＜質疑応答＞

**中村委員**

森の基本方針といったところは前の審議会までに決まったのか。

**事務局**

平成27年11月に将来ビジョンを策定したが、その前年度の審議会でいろいろ御指摘頂いた中で、これまで取り組んできた森づくりの中で色々課題があり、当面は手を加えていくということを将来ビジョンに記載させて頂いた。

**中村委員**

万博公園がつくられた当初の基本方針、計画などその時まとめられたものと今回まとめられたビジョンはどう整合するか、当時作られたものとどこが悪くてどこがいいといったそのあたりの検証も重要かと思う。

**深町委員**

樹木や生き物のリストや分布状況みたいな基本的なデータが必要。気象条件も変わってきた可能性がある。今適切なのかの検証が必要。あるいは樹種についても今の状況がどうなのか、色々な観点から検討がいる。公園外の周辺の緑の状況や、そのつながりを広域の観点から見たところでの位置付けというのも改めて見ていく必要もある。

**山本委員**

この森が壮大な実験の森である、ここの部分が非常に重要。森の育成方針については、完全に決めてしまうのではなくて、順応的管理のようにまず方針を決めて、進めながら修正していくシステムの導入が今回の試みには必要。

**服部委員**

植物の多様化は放置している限り絶対進まない。多様化を図るためには新しい発想で、積極的に植えていくというような行動をとらないとなかなか多様化は図れない。

**尼﨑委員**

自然文化園なので、自然と人・文化の関わりをどうしていくのか、どういう風な森にしていったら、どういった形・使い方になるかといった基本的なところの議論をしておくべき。

**中瀬部会長**

地球環境保全再生に貢献する公園、これはこれでいい。さらによりブレイクダウンしたキーワードが必要。多様性や共生等について、ぜひ議論いただきたい。もともとここは千里の丘陵のいわゆる里山。それを昭和45年に造成して万博を開き、その後、森に返そうという取組みを行ってきた。再度この森をこれからどうするのかと。中村委員の仰ったように、きちんと検証する。ヨーロッパでも荒らしまくった土地を自然に帰そうというのが世界的な潮流であり、そういう位置づけで万博公園を考えるとすごく壮大な試みになってくる。

**中村委員**

　環境、地域としては千里だが、埋め立て地と同じような難しい土壌なので、多様性を目指すけれども実験。なかなかうまくいかない可能性もあるというのは考えておく必要がある。

**深町委員**

　森でもなく完全な芝生地でもないような中間的な部分が少しあってもいいのかなと思う。

**服部委員**

万博公園の森は、もともと、照葉樹林をつくる密生林、里山をつくる疎生林、散開林とあったが、疎生林と散開林の部分が少なく密生林がものすごく大きい。

**尼﨑委員**

やはり公園なので、専門家が生態的に意味があると言っても仕方ない。その空間に行って、ああ良い空間だなと思われることを絶対第一に考えないといけない。

＜日本庭園の新たな魅力創出について　説明＞

＜質疑応答＞

**尼﨑委員**

庭園様式要素の保存というのは分からないのでは。大名庭園は別に時代を区切っているのではなく、それまでの時代の色んなものを詰め込んでいる。見て回るだけだったら大名庭園のような広いところに観光バスで連れて行かれて一時間でまわってくるなんて全然面白くない。やはり遊ぶから面白い。なにわの大名庭園だったら自分が大名になったつもりで、ここではこんな遊びしてという風なことを考えれば総合的な利活用と一体で考えらえるのではないか。もっと楽しく組み立てるための、一つのキャッチフレーズがあればよい。

**中瀬部会長**

　基本方針として感動する試みやニックネームが欲しい。

**深町委員**

　日本庭園というと静かで真面目でお勉強してみたいな面が強いが、ここはそういう場所ではなく、もっと色んな人の声だとか音が聞こえたりという活動があればよい。そこを利用するための拠点とか仕掛けとか、もっともっとたくさんあった方が良い。これだけ大きいので、長時間真面目に回る利用はあまり期待できないし、そういう場所ではない。

**事務局**

日本庭園は、万博公園の一番北側の集客装置としても非常に大きな力を持っていると考えている。基本計画としてまとめる際にも、1970年万博の遺産として分かるような形で守っていくことと、見せて楽しんでいただくという2つの要素をまず守っていく必要があると考えている。今年度は見どころとして八景のネーミングをご審議頂くほか、レストランなどの利便施設、こうやったら景観をつぶさずこの辺ならつくってもいいんじゃないかという話を頂き具体的な庭造りにつなげていきたいと考えている。

**中瀬部会長**

　八景としては、中国の杭州の西湖八景のように、ただ単にいつ行っても見れるのではなく、夕陽を見る八景や霧を見る八景など、このタイミングでないと見れないというような八景も参考にすれば良い。

また、剪定などの維持管理作業についても来園者に見てもらい、楽しんでもらうような工夫も必要。

**山本委員**

日本庭園に来られる方の客層はどうなのか。今回将来ビジョンでは色んな年代の人に来てもらいたいというのがあると思うが、その中で最近のAR技術というのは若い層を取り込むのに非常にいいかなと思う。

**中村委員**

　AR技術は庭園解説として外国人でも英語で解説があるということで、ここでも勉強できるというのがポイント。AR技術は自然文化園全体の樹木や森林を学習するのにメリットがあるので、日本庭園だけでなく、全体的に応用できる。

**中瀬部会長**

　ユニバーサルデザインについても、単に利便性とか安全性とかだけでなく、日本庭園ならではのユニバーサルデザインにチャレンジしてほしい。

**尼﨑委員**

　作庭当初の想定とは違う新しい景色を、ユニバーサルな動線で改めて提供してあげるといい。ハンディキャップの人だから仕方がないからこっち行きますではなくて、この景色こんなにいいじゃないか、という階段を登ってもらう必要のないルートをつくれれば良いと思う。

**中瀬部会長**

　決して新しいことはないけど、古いものをこう使ったら楽しいなど考えられればいい。

**深町委員**

　何でもやれば良いのではなく、新しい価値や視点を、ソフト・ハード問わずに柔軟に見つけられる価値が万博公園にはあるので、自由な議論がすごく必要であると思う。

＜閉会＞